

## 子どもの話に耳を傾ける

校長 相川 保敏



お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。

コロナ禍で中断されていた多くの活動が本年度はほぼ例年のように進められました。しかし、活動の中には3年間行っていなかったものあり、子どもたちは試行錯誤しながらもがんばって取り組んでくれました。こうしたがんばりを支えてくれたのは6年生です。最高学年として学校行事や委員会活動、縦割り清掃など様々な場面で、責任感を発揮し、下級生のことを考えて行動してくれました。特に低学年の中には、同じ縦割り班の6年生に出会うと自分から声をかけ、駆け寄っていく姿をよく見かけます。昨日のお別れ会では下級生から慕われ、頼りにされていた6年生への思いが歌声や言葉で表現されました。6年生のお姉さんとの別れを惜しみ、涙を流す姿も見られました。楯山小学校から6年生の姿が見えなくなってしまうことは寂しい限りですが、小学校での経験を生かして、中学校でも一層活躍されることを祈念しております。

来月からは慣れ親しんだ小学校から、まったく新しい環境となる中学校での生活が始まります。中学校生活への期待で胸が膨らんでいることと思います。一方で不安に感じていることもあると思います。例えば、教育環境をみても、

○ 学級担任制から教科担任へ変わる

○ いろいろな小学校出身者が集まってくる等、大きな変化が見られます。子どもにとっては未知のことが多くしばらく不安が付きまとうことでしょう。しかし、中学校生活に適應するには、様々な不安や変化を乗り越えていく必要があります。その際、良きアドバイザーとしての保護者の存在は欠かせません。

右の詩はアメリカの人間行動学博士デニス・ウェイトリーが書いたものです。思春期に入り親子のかわりが難しくなる時期ですが、ぜひお子様の声にこれまで以上に耳を傾けてほしいと思いま

「子どもの話に耳を傾けよう。」 デニス・ウェイトリー

きょう、少し

あなたの子どもの言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

さもないと、いつか子どもはあなたの話を聞こうとしなくなる。

子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。

どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いもほめてあげよう。

おしゃべりを我慢して聞き、いっしょに大笑いしてあげよう。

子どもに何があったのか、何を求めているかを見つけてあげよう。

そして、言ってあげよう、愛していると。毎晩、毎晩。

叱ったあとは必ず抱きしめてやり、

「大丈夫だ」と言ってやろう。

子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうやってほしくないような人間になってしまう。

だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、

子どもは自分を成功者だと思って育つ。

きょう、少し

あなたの子どもの言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

そうすれば、子どももあなたの話を聞きに戻ってくるだろう。

す。大人が子どもの話を聞けば、子どもはきっと大人の話聞くようになると言っています。その際、子どもが自分の気持ちを話し始めるまで待つこと、アドバイスを言う前にまずは最後まで聞いてあげることが重要です。傾聴する、共感することがポイントと言われています。聞いてもらった、わかってもらったことで安心感が生まれ、次へ向っていく力になっていくのです。

最後になりましたが、保護者の皆さまには長年にわたり、本校の教育活動にご理解、ご支援をいただき誠にありがとうございました。厚く感謝いたします。